

## L-カルニチンによる ESA 節減における有効例の選択

長崎腎病院

○北麻沙美 林田征俊 青柳真生 山中真樹子 丸山祐子 佐々木修  
一ノ瀬浩 李嘉明 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

### 【背景・目的】

近年維持透析患者における L-カルニチン投与の ESA 節減効果が報告されているが、「どの患者に投与するか？」については依然結論が出ていない。今回我々は、L-カルニチン静注投与における有効例について検討した。

### 【対象・方法】

当院で維持透析中の患者のうち文書で同意が得られた 177 名（CERA99 名、ダルベポエチン 50 名、エポエチンアルファ 24 名）に対し、L-カルニチンを毎透析後に 1000mg 静注投与し、Hb 値を 10-12g/dL に保ち、ESA 投与量が節減された症例の傾向を検討する。

### 【結果】

L-カルニチン投与 6 か月の時点で、評価可能症例は 120 名で、この期間中のそれぞれの ESA 製剤が節減できた症例は 41 名（33%）であり、これら有効症例では、開始前に高用量 ESA 群・Hb 低値群・TSAT 低値群が有意に多く、高アルブミン群・高リン群において有意ではなかったが多い傾向にあった。年齢・透析歴に差はなかった。

### 【考察】

ESA 節減を期待して L-カルニチン静注投与する場合、上記の結果が参考となる可能性がある。